

第4次大分市商工業振興計画 第1回策定委員会 議事録（要旨）

- ◆ 日 時 令和8年5月18日（月） 13:40～15:30
- ◆ 場 所 大分市役所議会棟4階 全員協議会室
- ◆ 出席者

【委員】

渡邊 博子、田北 裕之、山田 明広、森 晴繁、渡邊 将貴、穴井 壯志、高橋 知恵、
浅見 陽央、古川 毅彦、齋藤 正行、清家 夏実、藤田 泰次郎
の各委員（計12名）

【事務局】

商工労働観光部 審議監 渡邊 祐美 次長 安達 浩
商工労政課 商工労働観光部次長兼商工労政課長 幸 紀宏、同参事 工藤 博士、
同参事補 狩生 浩一郎、同主査 志賀 祐介、同主事 濱田 和哉

【作業部会】

商工労政課 参事補 河野 玄、同参事補 関口 功二、同参事補 安部 順司、
同主事 永藤 里菜、
創業経営支援課 課長 後 竜太郎、同参事 長藤 聡、同参事補 奥野 剛士、
同主査 坂本 亮、
観光課 課長 樋口 文昭、同主査 秦 航佑、
おおいた魅力発信局 局長 緒方 賢一郎、同主査 岡部 秀登
農政課 主任 小俣 昂平、生産振興課 専門員 中村 泰基、
公設地方卸売市場 参事補 松尾 裕之、人事課 戸高 健志、
契約監理課 参事補 竹之内 誠、企画課 主査 松岡 健太
DX推進課 参事補 村田 真一、環境政策課 主査 西山 恵美、
学校教育課 指導主事 末松 哲郎

◆ 次 第

1. 開会
2. 委員自己紹介
3. 議事
 - (1)委員長及び副委員長の選出
 - (2)スケジュールについて
 - (3)第4次大分市商工業振興計画 総論（案）
 - ①計画の概要
 - ②本市の特性と取り巻く情勢
 - ③計画の基本的な考え方
 - ④計画の体系図について

(4)市民向け・事業者向けアンケートについて

4. その他

5. 閉会

進行：事務局	<p>1. 開会</p> <p>2. 委員自己紹介</p> <p>3. 議事</p> <p>(1) 委員長及び副委員長選出 委員長に「渡邊 博子 氏」、副委員長に「田北 裕之 氏」が選出され決定。</p>
進行：委員長	<p>会議の公開・非公開の取扱いについて議論し、原則公開とすることとし、取扱う内容によっては、その都度協議の上、非公開とすることを決定。</p>
事務局	<p>(2) スケジュールについて 資料2のスケジュールについて説明。</p>
事務局	<p>(3) 第4次大分市商工業振興計画 総論(案)について 資料3、資料4の以下の内容について説明。</p> <p>①計画の概要 ②本市の特性と取り巻く情勢 ③計画の基本的な考え方 ④計画の体系図について</p> <p><①～④に関する協議内容> -----</p>
委員	<p>【質問・意見】 数年間で社会情勢が大きく変化している中で、DX や人材育成、サイバーテロの問題等を書き加えられており、骨格はできているのではないかと思う。</p>
委員	<p>【質問・意見】 社会情勢の記載について、新型コロナウイルスに関する記載を削除して、現在の社会情勢を追加してくれているが、この1年の間にも、社会情勢が大きく変化していくと思うので、策定期間中に柔軟に見直して、必要なキーワード等を盛り込んでいただければと思う。</p>
事務局	<p>【回答・協議結果】 社会情勢は今後も変化していくと思われますので、今回の案で完成ではなく、計画策定の期間中に柔軟に見直しを行ってまいります。</p>

委員	<p>【質問・意見】</p> <p>第2章の本市の特性と取り巻く情勢の中で、「脱炭素社会の実現に向けた取組の広がり」の記載があるので、第1章計画の概要の「1. 計画の目的」の商工業を取り巻く環境の変化に関する記載の中に、脱炭素を含めた環境対応を入れたほうがいいのではと思う。また、文言として、現計画でもSDGsの文言がないが今回もいれなくても問題ないか。</p>
事務局	<p>【回答・協議結果】</p> <p>環境対応に関する記載については前後のバランスを見ながら追加をしていきたいと思えます。SDGsにつきましては、現計画の総論には記載がありませんが、計画の資料編にSDGsの実現ということで、体系図の関連がわかる資料をつけております。総論の中に入れるか、現計画と同様に資料編としてつけるかどうかは、今後状況を見ながら検討してまいります。</p>
委員	<p>【質問・意見】</p> <p>体系図について、「1. 新たな産業の創出」という言葉が以前からテーマとして大きすぎる気がしており、確かに国レベルや世界レベルであればよく分かるが、市町村での「新たな産業の創出」というときに、新たな事業機会や新たな事業の創出などのレベルではないかと思っている。宇宙やロボットなどの分野に関わるということは明確であるが、それらを創出していくまでの流れが必要であるのかというところを検討していただければと思う。より具体性に結びつくようなキーワードのほうがいいのではないか。</p>
事務局	<p>【回答・協議結果】</p> <p>体系図のタイトルにつきましては、2回目、3回目の策定委員会で各論の議論に入っていく中で、具体的な取組内容などの記載を検討していきますので、その中で併せて名称についても取組内容にあった名称になるよう検討してまいります。</p>
事務局	<p>(4) 市民向け・事業者向けアンケートについて</p> <p>資料5、資料6の内容についてそれぞれ説明。</p> <p><市民向けアンケートに関する協議内容> -----</p>
委員	<p>【質問・意見】</p> <p>市民向けアンケートの対象者の抽出条件について、詳しく教えてほしい。また、大分市の年齢別の人口割合は調査されているか。年齢別の対象者の分け方に根拠はあるか。</p>

事務局	<p>【回答・協議結果】</p> <p>対象者は15～75歳の2,000人としているが、2,000人の分け方としては、15～65歳の男女をそれぞれ180人ずつ、65～75歳を男女100人ずつで計2,000人としております。</p> <p>人数割については、前回と比較しやすいように同じにしています。</p>
委員	<p>【質問・意見】</p> <p>人口は毎年更新され構成比や母数も変わっていくため、アンケートの狙いにも関係していくと思うので、目的と得られる数値に相関的なものであればいいが、相関性が離れていくと数値が無意味なものになってしまうので、少し危惧を感じた。</p>
事務局	<p>【回答・協議結果】</p> <p>人数の振り分けについては再度検討をして、対応できる部分は対応できるようにしてまいります。</p> <p>⇒各年代の人口割（4月末時点）は</p> <p>15～24歳：9.6%、25～34歳：9.9%、 35～44歳：11.7%、45～54歳：14.9% 55～64歳：12.4%、65～74歳：12.5%</p> <p>年齢別の割合に大きな差はないが、34歳以下については10%を割っています。また、前回の調査では年齢別に均等に人数を分けた結果、20歳代以下の回収率が最も低く、12.6%であったため、若い世代の回収率を少しでも上げるため、人口割合によって、34歳以下の人数を減らさずに、前回同様、均等に分けた人数で調査をさせていただきたいと思っております。</p>
委員	<p>【質問・意見】</p> <p>より正確であればいいと思うが、アンケートの目的が意向調査であるので、多世代の大体の方向性や傾向が見られれば良いのではないかと思う。その結果をもとに策定委員会を通して新たな施策を検討していければ良いと思う。</p>
委員	<p>【質問・意見】</p> <p>アンケートを郵送で送付するが、アンケートについての前触れがなく郵送で届くだけではすごく唐突な感じがする。前回の調査で2,000人中、42%の回収率があったということだが、大分市民はすごく意識が高いと感じた。時間と労力を使って計画を策定していくので、計画の</p>

事務局	<p>策定やアンケート調査について、広報活動をしていくことが大事だと思う。また、若者の回答を増やすために Google フォームなどを使用したほうが良いのではと感じた。</p> <p>【回答・協議結果】 計画の策定に関することや、アンケート調査に関する広報を HP 等で行ってまいります。</p>
委員	<p>【質問・意見】 市民アンケートの対象者について、完全な無作為に 2,000 人抽出できるものなのか。また、広報等の前触れがない中で、回収率が 42% であったことは信じがたいが、本当に無作為抽出なのか。</p>
事務局	<p>【回答・協議結果】 前回は意図的に選んだ 2,000 人ではなく、年代ごとの人数・居住地に偏りが生じないように、年代・居住地などのグループに分け、各グループから無作為抽出することによって選んだ 2,000 人であり、今回も同様に実施をします。</p>
委員	<p>【質問・意見】 大分市が行っている他のアンケートなどはどのようにしているか。</p>
委員	<p>【回答・協議結果】 毎年大分市民意識調査を実施し、総合計画の施策ごとの満足度や具体的な取組に関する調査を実施しております。昨年度は対象者数 4,500 人に郵送で調査票を送付し、回収率が 42.8% になっております。また令和 6 年度から紙の回答だけでなく、電子で回答ができるようにしたところ、まだ環境に慣れていないためか回収率が 28.3% に下がった結果があります。電子回答ができるようにしておりますが、そのことがはっきり分かるような環境にしていけないと回収率が上がらないですし、回収率が上がらないとアンケートの信頼度が上がらないので、精度の高い調査になるように事務局も努力していかなければいけないと思っております。</p>
事務局	<p>【回答・協議結果】 資料のアンケート概要に郵送調査法と記載しておりますが、前はすべて紙の郵送調査法で実施をしましたが、今回は事業者向けアンケート及び 15～54 歳までの方については、すべて QR コードがついたはがきを送付し、電子回答をしてもらうようにしております。また、市民向け</p>

委員	<p>アンケートの55歳以上の方については、紙での調査票を送付しますが、中には電子で回答できる方もいらっしゃると思いますので、調査票にQRコードも記載しており、どちらでも回答可能とする予定にしております。</p> <p>【質問・意見】</p> <p>どちらでも回答ができるのであればいいと思う。私の日ごろの活動の中でも紙と電子両方を使っており、聞き取るほうが意図的に回答方法の選択肢を増やしていかないと、電子化の誘導ができないと思うし、電子の方が処理も楽だと思うので電子回答の件と、アンケートに関する広報活動もしていただけることで安心した。</p>
委員	<p>【質問・意見】</p> <p>アンケートに関する広報活動はとても必要なことだと思うので、ご検討いただければと思う。</p>
委員	<p>【質問・意見】</p> <p>15歳から75歳の幅広い方々からご意見をいただくことになると思うが、質問が共通なため、中学生や高校生が回答するには難しい質問や選択肢が多く、理解できないまま勘で答える人も出てくると思う。そのような場合、正確な回答が得られないのではないかと。15歳以上を対象にする必要があるのか疑問に感じた。</p>
委員	<p>【回答・協議結果】</p> <p>参考として、大分市若者応援条例というものがあまして、若者の定義について、16歳から29歳までを若者と位置づけております。10代の若者からの回答もあれば、全体の結果から年齢別のクロス集計もできるので、10代の回答傾向も見ることができるといことも一つあります。また、このようなアンケートの回収率は、40～60代が多い傾向があり、10代、20代は低い傾向にあるため、先ほどご意見がありましたアンケート調査の広報はとても大事になりますが、若者は今後の生産年齢人口に該当する方達なので、若者からのご意見も重要だということもあります。</p> <p>⇒（補足）大分市若者応援条例において、若者とはおおむね16歳から29歳までの者を指しているが、アンケートの対象年齢は令和8年4月1日時点での抽出になるため、中学生は対象者に含まれず、高校生以上を対象としている。</p>

<p>委員</p>	<p>【質問・意見】</p> <p>アンケート結果は、市民に対して公開されるか。</p>
<p>事務局</p>	<p>【回答・協議結果】</p> <p>結果については大分市のHPで公開をする予定としております。</p>
<p>委員</p>	<p><事業者向けアンケートに関する協議内容> -----</p> <p>【質問・意見】</p> <p>問3、問5で「物価上昇」という表現について、市民向けアンケートでは「物価上昇」の方がわかりやすいと思うが、事業者向けアンケートでは、「原材料価格等の上昇」の方がわかりやすいのではないか。</p> <p>また、問4の賃金についての（3）賃上げを行う上での最も大きな課題について、選択肢2の「物価上昇・コスト上昇のバランス」という選択肢の意味が伝わらない気がするので、「賃上げによる営業利益の減少」や「原価価格の見直し」などがいいのではと思う。また、選択肢4の「賃上げ方法による社員の不満や離職」の「賃上げ方法による」という表現は、回答する事業者が引っかけたしまう気がするので、端的に「社員の不満や離職」の方が、事業者の本音が聞きだせるのではと思う。</p>
<p>事務局</p>	<p>【回答・協議結果】</p> <p>質問内容や回答の選択肢について変更、追加を検討してまいります。</p> <p>⇒「物価上昇」を「原材料価格等の上昇」に変更</p> <p>⇒「物価上昇・コスト上昇のバランス」を「原材料価格等の上昇に伴う営業利益の減少」に変更</p> <p>⇒「賃上げ方法による社員の不満や離職」を「社員の給与格差への不満や不公平等への対応が難しい」に変更</p> <p>⇒選択肢に「国・県・市などの補助金のハードルが高い」を追加</p>
<p>委員</p>	<p>【質問・意見】</p> <p>総論や体系図において、DXが大きなキーワードになっている認識であるが、その観点でアンケートを見ると、DXに関する現状や課題をもう少し深掘をしても良いのではないか。また、問9については、IT機器の導入でAIを活用しているかどうかの有無は分かるが、AIといっても単純作業の効率化の他にもいろいろあると思うので、市内の事業者がどのようにAIを使っているか、今後どのように使っていきたいか、またどのような課題があるのかまで聞くと支援策を立てやすいのではないかと思う。しかし、別の部署の調査などでDXのニーズ等の調査をするのであれば、そ</p>

事務局	<p>らの結果で対応すれば良いのかと思うが、そういったものはあるか。</p> <p>【回答・協議結果】</p> <p>DX に関する質問については、もう少し深掘をするような質問の追加を検討してまいります。また、DX に特化した調査については、商工部門では実施していませんが、DX の関連部署もありますのでそちらと協議しながら検討してまいります。</p> <p>⇒問 1 3 に「DX の推進について」という項目を追加し、小問で DX の取組状況、取組内容、DX 推進を図るうえでの課題の質問を追加</p> <p>⇒AI の活用状況に関する質問については、アンケート調査の質問数全体のボリュームを抑えるため、今回は DX に特化した質問として、選択肢に AI の活用を入れる形にして深掘りはしないことにしました。</p>
委員	<p>【質問・意見】</p> <p>事業者の課題として人材確保があり、アンケートの中にもいろいろ網羅されていると思う。その中で外国人材の活用については、法律も改正され、事業者も興味をもって取り組んでいる。もう一つ UIJ ターンに関する事で、基本的に高校を卒業されると県外の大学に出て、そのまま就職してしまう。できれば大学卒業時に大分市に帰ってきてほしいし、途中からでも帰ってきてほしいので、UIJ ターンに関する質問を追加していただければと思う。</p>
事務局	<p>【回答・協議結果】</p> <p>UIJ ターンに関しては、各論にも出てくる内容になりますので、アンケートについても追加の方向で検討してまいります。</p> <p>⇒問 9 人材の育成・確保の中に UIJ ターンの人材確保に関する質問を追加</p>
委員	<p>【回答・協議結果】</p> <p>毎年本市では、企業等 1 0 0 社訪問というものを実施しており、県も県内 5 0 0 社訪問というものを実施しております。本市としては、企業等 1 0 0 社訪問のデジタル化に関する調査項目で、取組状況や取り組む際の課題、市に求める支援策などを調査しており、「費用対効果がわかりにくい」や、「従業員が IT ツール・システムを使いこなせない」などの課題は見えております。今回のアンケートに限らず、訪問した際に企業の状況を把握し、具体的な取組を進めていければと思っております。UIJ ターンについても、人材確保ということについては、非常に重要なことですし、企業も人材を取り込むため、新入社員の奨学金を企業が負担する</p>

委員	<p>などの努力をしているので、そうした動向を踏まえながら、アンケートに盛り込めるところは盛り込んでまいります。</p> <p>【質問・意見】</p> <p>参考までに、中小企業の抽出条件について、資本金とあるが、より具体的に教えていただきたい。</p>
事務局	<p>【回答・協議結果】</p> <p>手元に詳細の資料がないため、後日改めて報告させていただければと思います。</p> <p>⇒業者の抽出については、法人1,300社、個人事業主200社を抽出しております。法人、個人ともに基本的には業種に偏りがないように抽出しております。また、法人については、中小企業基本法第2条第1項に定める資本金の要件を満たす事業者を抽出しておりますが、資本金が100万円～200万円未満が34%、200万～500万未満が30%と約6割が500万円未満としており、最大で3億円の企業も含めるなど資本金についても幅広い企業を抽出しております。個人事業主について、5年前の調査では、大分商工会議所のインターネット商工名鑑より500社抽出していましたが、昨年末よりインターネット商工名鑑は廃止されたため、今回は抽出方法が、商工労政課の小規模事業者競争力強化補助金の受給者から可能な限り抽出するという方法に変更しております。</p>
委員	<p>【質問・意見】</p> <p>価格転嫁の質問や人材確保に関する質問など資本金の規模によって状況は大きく変わってくると思うので、抽出する際はバランスをとってほしい。</p>
事務局	<p>【回答・協議結果】</p> <p>参考にさせていただければと思います。</p>
委員	<p>【質問・意見】</p> <p>アンケートの回答をする際にいつも悩むが、問7で原材料の原産地を知りたいのか、取引相手の商社の所在地を知りたいのか、注釈があるとわかりやすいと感じた。</p>
事務局	<p>【回答・協議結果】</p> <p>表記については確かに少し分かりづらいと感じますので、注釈を入れ</p>

委員	<p>て対応いたします。</p> <p>⇒問題の順番を整理し、問14(2)に変更、注釈を追加。</p> <p>【質問・意見】</p> <p>アンケートを踏まえ、計画策定及び施策に反映させていく上で、重要なキーワードだと思っていることで、リスクリングや兼業・副業人材の活用があります。デジタル人材に関する質問で、リスクリングに関する質問や、兼業・副業人材の活用についての質問を可能であれば追加できたら良いのかなと思う。問5の物価上昇の価格転嫁については、できていない企業が圧倒的に多いと感じているので、できていないのであれば理由まで聞いたほうが良いのではと思う。</p>
事務局	<p>【回答・協議結果】</p> <p>質問内容の追加については、他の質問とのバランスを見ながら、検討してまいります。</p> <p>⇒問12の(3)でリスクリングを支援したい分野についての質問を追加</p> <p>⇒兼業・副業人材の活用については追加を検討しましたが、質問数の増加による回収率の低下が懸念されることや、毎年実施している企業等100社訪問でも活用状況については質問を入れているため、今回は追加を見送り、企業等100社訪問で対応してまいります。</p>
委員	<p>【質問・意見】</p> <p>できればすべての質問に自由記載欄があれば良いのではと感じた。また、中小企業の抽出で、農業・林業、漁業を除いているのは商工業振興計画だからだと思うが、農業等の個別計画でカバーしているということではよろしいか。また、6次化産業は商工業振興計画に関係はないのか。</p>
事務局	<p>【回答・協議結果】</p> <p>自由記載については、全体のバランスや回収率を踏まえ、質問を作成しております。しかし、追加が可能かどうかは再度検討してまいります。農業については、今年度農林水産業振興基本計画を策定することになっておりますので、そちらが農業に特化した計画になります。しかし、6次化産業については、企業等100社訪問で農林水産部と連携して行っており、農業等に関する質問も入れていることや、現計画の各論の中でも、農商工連携や6次化産業化の取組への支援などの記載もあり、今後各論の検討をしていく中で、反映させていただければと思って</p>

委員	<p>おります。</p> <p>⇒自由記載については、質問数の増加による回収率の低下が懸念されることと、問20で全体を含め自由記載欄を設けていることを踏まえ、追加は見送りいたしました。</p> <p>【質問・意見】</p> <p>様々な意見が出ておりますが、アンケートは6月に実施ということであまり時間がないですが、今後もう委員会は開かないと思いますが、どのような動きで進めていくか。</p>
事務局	<p>【回答・協議結果】</p> <p>委員の皆様からいただいたご意見を踏まえて、事務局で早急にアンケートを修正してまいります。その後、委員さん全員に再度ご説明する機会はありませんので、委員長に了解をいただいたうえで、その結果を委員の皆様へ送付させていただければと思っております。</p>
委員	<p>【質問・意見】</p> <p>皆様の貴重なご意見をすべて反映できるかわかりませんが可能な限りさせていただければと思っております。また、これからの5年、そして将来に向けての施策になってくるので、新たな変化は取り入れていかないといけないと思っておりますので、事務局と相談しながら作っていただければと思っております。</p>
委員	<p>【質問・意見】</p> <p>総合計画と年次が一致していないことがどうなのかなと感じた。また、質問の流れがバラバラになっているので、一度順序について検討していただければと思う。</p>
事務局	<p>【回答・協議結果】</p> <p>事務局といたしましては、計画期間を総合計画と必ずしも一致させる必要はないと考えております。</p> <p>もし、計画期間を同一にした場合、策定業務を同時並行的に行うこととなるため、総合計画が修正されるごとに、本計画を修正しなければならず、策定手続き自体が煩雑になりますことから、総合計画の期間とズラした形で本計画を策定の方が効率的であり、かつ個別計画という趣旨に沿ったものができるのではないかと考えています。また、総合計画の1年目に策定となると、総合計画の実績がないため、総合計画の実績を踏まえて</p>

	<p>策定するために、総合計画とは2年遅らせる形で策定しており、総合計画の第1次計画が2025年度から5年間となっているため、第4次大分市商工業振興計画も同様に2027年度から5年間を予定しております。</p> <p>⇒アンケート調査の質問の流れについては、整合性が取れるように、関連性の高い質問が並ぶよう順番を整理しました。</p> <p>4. その他</p> <p>【質問・意見】</p> <p>私自身就職先は県外に決まっているが、いつかは大分市に戻ってきたいと思っているので、県外にでてしまう若者が多いと思う中で、出ていくことを阻止することも大切であるが、UIターンで戻ってくることも大切にしてもらえたらと思う。</p> <p>【質問・意見】</p> <p>委員長から新たな産業の創出について、ご意見があったが、行政として、新産業を創出していく動きをどこまでするかが、若者が残るか残らないかに直結するのではないかと感じた。アンケートにも成長を期待する産業の質問があるが、元々のポテンシャルがあって、やっていきましようという問いかけではないので、結構難しいのではないかと感じた。</p> <p>【質問・意見】</p> <p>製造業のポテンシャルは大きいと思うし、これからの産業、例えば半導体等も大きいと思う。それらをどうやって大分に入れ込むか、熊本は力を入れていたりするが、それらをどう入れ込むかが大事になると思う。事業を作っていく機会の創出ではないかと思って申し上げたが、ポテンシャルを踏まえた新産業も必要ではないかと感じた。それぐらい大きな目標をたてていかないと難しいところではあると思うが、あと4回策定委員会があるので、その中で議論していただければと思う。</p> <p>【質問・意見】</p> <p>地元の資源と繋げて、熊本の半導体と連携してやっていくでもいいと思うので、具体的な動きの積み重ねが大事ではないかと思う。</p> <p>【質問・意見】</p> <p>文言にこだわることなく、大きい目標をもって、若者たちで戻ってくる人たちや、他地域から大分県に来て、大分県に就職してくれる卒業生</p>
委員	
委員	
委員	
委員	
委員	

委員	<p>の割合は4割弱なので、少しでも数を増やしていくことが一つの目標でもあると思うし、逆に出て行っても戻ってきたいと思える街づくりや地場づくりが必要だなと改めて感じた。</p> <p>【質問・意見】</p> <p>いろいろな意見が出て、アンケート一つにおいても、より良いものができるなと感じました。また、本日の総論が一番大事な部分だと思っており、何を目的に何を指して計画を作るのかというところです。そこから具体的な取組が各論で出ていくので、今一度総論についてもチェックしていただいて、パブコメをかける前までに整理できればと思っておりますので引き続きよろしくお願いいたします。</p> <p>(事務連絡)</p> <p>(閉会あいさつ)</p>
----	---